

1 賛成の理由

- ① CVVの主旨に賛同
- ② 専門知識・技術による貢献
- ③ その他

2-1 問題点・疑問点・問題提起

- ① 全体的な疑問
- ② どんな組織を作るのか(社会的認知?)
- ③ 土木学会との関係
- ④ ?
- ⑤ 技術・経験継承の必要性
- ⑥ 技術領域論

2-2 個人の事情

- ① 技術力, 経験の蓄積に不安
- ② 時間制約
- ③ 体力不足

3 CVV組織運営

- ① 中立
- ② 行政補完
- ③ 情報
- ④ 住民・地域
- ⑤ 通訳・ご意見番・組織哲学

1 賛成の理由

① CVVの主旨に賛同

会の趣旨に賛同できる。

良いことだと思う。

今現在、防災に関する財団法人に勤務していますので、この業務に専心努力しているところです。CVVの趣旨には賛同いたします。

活動組織があれば出来るだけ参画したい。

グループの趣旨につきましては賛同です。

特にありません

大変良い運動と思います。賛同いたします。

多少時間的な余裕があり自分に出来ることを微力であるが、社会的に役に立ちたいと思います。

方向としては大賛成。具体化には問題が多いと思うが進展を期待したい。

たいしたことはできない。しかし前向きに取り組むべきことと思う。

支障のない限り参加したい。

身体的に無理のない貢献をしたい。

興味がある

現在はまだ多忙の身ではありますが、そのうち余裕ができればと考えます。趣旨は賛成です。

なんらかの形で社会にお返しをしたい

大変良いことだと思う

② 専門知識・技術による貢献

「ベテラン技術者の専門知識を生かすことを目的とした社会貢献活動」に賛同します。

定年後、それまで培った専門分野の知識を生かし、社会貢献活動をしていくことは我々の義務であると思う。

長年に亘って蓄積した実務経験を活用したい

知識を生かせる場があれば参画したい

長年に亘って、習得した知識を活用することは有意義であると考えている。

非常に有意義な活動であると思います。こういう活動で社会に貢献できる場があり、かつての経験を生かすことができれば、地域にとっても、自分個人にとっても、大変良いことであると思います。

わずかな専門的知識でも、少しでも地域の人たちのお役に立てるならば、喜んでご協力させていただきます。

社会資本を正常な状態で維持管理するためには、日常それを利用している人の意見を聞くことが大切である。地域に根差したOBの人々の意見を行政に反映させることは非常にいいことだと考えます。

経験結果、参考意見

非常に良い考えだと思います。自分の経験や知識を有効に生かせればと思います。

長年培われたいい面を効果的に発揮し、社会貢献の一助になれば、生き甲斐にもつながると思う。

高齢化の進む中で、まだ心身共に元気な土木技術者OBが、その持てる技術経験を生かして社会に恩返しができることは、大いに望ましいことです。私でもお役に立てる機会があれば、積極的に参加したいと思います。

これまでの経験がお役に立つような機会があるなら参加する。

埋もれてしまう経験の蓄積が社会に貢献できれば望ましいことである。

もし経験を生かして（たいしたものはありませんが）地域に多少でも貢献できれば・・・と思っていたところです。

自分の出来る範囲で活動することが大切である。

行政経験と技術力(知識)を通じての土木技術者としての果たす役割については自覚。

特に行政に携わった土木技術者にとって、自分の経験が(オーソライズされた形で)生かされるのは望ましいことと考えます。

常に新しい技術進歩を吸収しながら土木分野で社会貢献するためには、なんらかの会に入り、今まで得た技術に修正を加え、貢献の場に参加したい。



③ その他

官公庁を退職後、第2次就職しても、ほとんどが営業まわりで、時間を以下につぶすかに腐心していると聞く。今まで持っていた専門知識がサビついて失われていくのは目に見えており、非常にもったいない気がする。活用する手立てがないのかと思っていたところである。

今、第2の人生として探索メーカーに勤めているが、業務が営業ゆえ土木の実務からは少し距離を置いている。行政官として培った意識・認識を営業業務の中で若い人(官庁の)に伝えていきたいと考えている。(…これが実例にもつながるが…)
CVVでイメージが合致し、負担にならないならば参加するのもおもしろいか、とも考える。

小児化、高齢化社会を迎え、社会の活力保持のためには、健康が許すならリタイア市民も市民社会の中で一定の役割を果たし続けることが望まれる。

シビルエンジニアリングを大きくとらまえた場合、社会貢献活動そのものと考えている。過去はその活動の場として行政あるいは企業に身を置いていたに過ぎない。したがって、

本人としては社会に貢献できるほどの専門知識を持っているとは思いませんが、退職後も発展する技術に触れ、社会とのつながりをもって、少しでも社会のために何かお役に立てれば・・・と考えます。

社会奉仕、世論の湧出、健康のため活動したい

2-1 問題点・疑問点・問題提起

① 全体的な疑問

CVI構想及びCVVの方向性がわからない

いまひとつ社会貢献活動の具体的内容が良く理解できない。

CVVは有用公活動とは思われるが、官側がどの程度理解をし、件名毎に活動を認めるかが問題であると思う。CVV活動を支持する。

各自が真に物事を客観的に捉えなければ、この活動はできないと思われるので、難しい問題だと思う。

退職後に真に元いた組織から離れて活動が出来るかどうかは難しい問題だと思われ、ロビイスト的な存在にならないか疑問が残ります。

② どんな組織を作るのか(社会的認知?)

非常に喜ばしいことで、このような組織が積極的に活躍し、この組織が社会的にオーソライズされることを希望しています。

ネットワークの構成範囲を拡げることにより、中立性を確保してゆこうとのお考えに賛同。何をどのようにすれば有り余った暇を土木の面でも少しでも役に立てられるかをわからない我々のような者には、受け皿があることが大きな意味を持つ。

必要性はよくわかりますが、どんな形で組織化したらいいのか？
町会などの自治組織と関係付けることも考えられるかも。

適切なルールを確立して、活動しやすい組織作りが大切。精神訓話だけでは空振り。

公共事業の必要性・重要性等を市民に理解を得るのは行政の責務。委員会行政が主体の現状で、CVVの設立趣旨に沿った活動が可能か。第3者が間に入ると日本人社会の構造上、どちらかに偏する場合が多い。特に反公共組織ばかりで中立を維持できるのか疑問。活動内容を絞り、実績を積み重ねないと過去の技術者集団のワガママと写る。

③ 土木学会との関係

このCVV組織の社会的信頼性は必要と思いますが、土木学会が運営にどのように関わる考えですか？
(例えば、活動に際してCVの人選をするのですか)

行政・民間企業と市民団体、双方から認知されなければ成り立たないが、どのようにして行うのか。土木学会はどの程度バックアップしてくれるのか。知りたい。

④ ?

現職と退職者間の調整機関が必要である。ボランティアであってはならない。本来無償支援は成立しない。

⑤ 技術・経験継承の必要性

永年土木の勉強、仕事の経験を世の中に役立てることは有意義であると思っている。その見識と社会に役立てる便方を考えねばと思う

今の子供(生徒、児童)に技術者への道を選んで欲しい。そのためのPR活動が有益だと思っている

土木工学は一般に経験工学と言われているように、今までに得た技術(本に載ってないこと)を継承伝達すると共にトラブルや防災に役立てたい。

工学分野では特に土木部門で経験工学と言われるほど、体験が貴重である。成功・失敗共その内容を継承していくことが必要であり、無駄を軽減できる効果がある。

土木技術は基本技術と経験技術がある。今後に生かせれば良いと思う

現役時の行政と土木技術の実務経験、知識は大いに活用すべきである。

従来の建設の縦割りシステムを横断的に考察することによって、考え出されるシステムや技術の開発が必要だと思う。

⑥ 技術領域論

〔環境問題〕

環境創造に係わることを中心に取り組んでみたい。

地球規模での環境問題が叫ばれている今日、地球温暖化・エネルギー・食糧問題等解決の困難な問題が山積みしている。次世代・将来世代のために我々が取り組むべきことは、今の生活を脱却し、省資源、省エネルギー等を通じて環境の負荷の少ない持続的発展が可能な社会づくりが急務であると思う。身近なことで役に立ちたい。

今後は、土木学会としても地球環境問題に貢献する必要があると思います。それには、ISO14001が必要です。私はCVVで環境問題に取り組みたいです。

快適に過ごせる公害のないまちづくり。ダイオキシン問題・PCB問題等除去設備。

〔風景論〕

住みやすい街、明るい住宅、日常のストレスを街がかもしだす風情や街並みの情緒から解消されるような自然風景を作りだしてみたい。

人間の行動を重視した計画・設計

〔まちづくり〕

まちづくりの計画、立案に特に興味がある。

〔社会基盤整理〕

効率的な社会資本整備の促進と既存施設への有効利用、保全継続

高齢化、成熟化、低成長化の21世紀の日本社会に向けて、社会基盤の整備のあり方と鉄道整備のあり方。

社会基盤の整備のためには必要である

〔非常時——防災〕

これといって自慢の出来る専門分野・知識はないが、震災などで非常時にはボランティアなどでなんらかのお役に立ちたい。

興味は充分にあるが、非常時にどれだけ活動できるかが心配である。過去に台風時の救助活動の経験はある。

阪神大震災時の救助活動や復旧に貢献できた。

自分たちの知識を活用することは大変良いことだと思います。例えば地域防災について日常生活の中で危険を感じたことがあった場合、その意見を管理者に関係なく投書など出来るシステムがあれば、より地域の安全を図ることができるのではないのでしょうか。地域ぐるみの防災の場があればよいと思います。

2-2 個人の事情

① 技術力, 経験の蓄積に不安

過去の経験や知識が役に立つのはありがたく嬉しいことですが、技術は日進月歩で、実際の仕事にはあまり役に立たないことを怖れます。むしろ、土木技術の基本的なことや実務に対する心構え等で助言できれば幸いと思っています。

現在における専門分野の学習がなければ過去の知識のみでは、社会貢献活動が十分に生かされないのではと不安がある

興味はあるが知識は浅く、趣旨に沿うような経験もほとんどないことから、もし参加しても自信は全くない。

非常に興味があるが現役から離れていた者には、どの程度役に立てるか不安がある。逆に老害になることを恐れる。

自分は何が提供できるのかを考えたとき、役立つものがあるのかどうか不安です。

② 時間制約

現在まだ現役中。多忙の日々。時間があればボランティアしたいが・・・

現在会社を創立し、その基礎づくりに多忙なため、興味はあるがとても参加できません。(将来は興味がある)

現在子会社へ再就職しているので、ご主旨に対して余裕はないが将来退職した場合には、興味を持っている。

将来、再就職の期間満了後の社会貢献活動というような形なら可能ではないか。

現役引退後に

現在では仕事の方が忙しく、参加することは困難であるが将来は時間的な余裕ができると思う

社会貢献活動については協力したい。但し、現在会社の代表取締役のため、時間的な余裕が出来るかが問題。

趣旨は賛成だが、機会は今のところ時間がとれないので、厚命をさらにとってからになる。

興味はありますが、現在月～金は会社勤め、日曜日も仕事しています。土曜日は家庭サービス・・・とゆとりがありませんが、退職後は何か社会に役立つボランティア活動が出来ればと願っています。

- ・ユニークな活動だと思います。
- ・現在は貢献活動する「心」と「時間」の余裕がありません。

③ 体力不足

知恵があっても体力に問題があると思われる。

興味はあるが、体力・気力ともに衰え、活動は困難である。

①ですが、年齢的なものがあり、65才を過ぎると肉体的に無理のように思う。

趣旨には賛同します。非常に良いことですが年齢上実働参加は難しい。

私の場合、国際協力の方にウエイトが行っていますので外れています。年齢のリミットはJICAのシルバーボランティアの69才までが良いと考える

3 CVV組織運営

① 中立

現役時代と違い、中立的な技術屋として社会に貢献できる場として必要であると考えます。技術屋の社会的な地位向上にも結びつくと思います。

公共事業は地権者野権利を拘束するのでボランティア活動の立場と位置づけを明確にする必要がある。

街づくり(物づくり)について、よりよい物(社会資本)を残すためには、地元と行政の間に立って意見の交換・調整等生かす余地はあると考える。

公共事業等の円滑な執行のため、このような中立的な組織を活用するのも(対象事業によっては)ひとつの方法かなと思われる。

行政と住民の間に立つ中立的組織の確立が必要であり、なかなか難しいと考えられる。

役人のしがらみを離れ、自由な立場で住民に接することが出来、行政のあり方を是正することが出来る

- ①官と民との橋渡しになれば。
- ②シルバーエンジニアの生き甲斐に。

行政と市民の間に立つ第三者的な立場からの活動であればよい。

お役に立てるのであれば積極的に参画したい。役所は過去の結果、失敗を恐れ、前向きに対処しない。また住民はエゴを言うことが多い。双方の中間的な立場から判定してみたいと思います。

国や地域のためにも有意義な活動であると思う。特に企業を離れた立場からの意見は、より中立的なものとして受け止められやすいのでは？

公共事業の実施に当たって、計画から実施までに特に行政と一般住民との間でのトラブル調整等いろんな問題が生じるのが常であり、公共事業をスムーズにあるいは地域のために中立的な立場で役立てることは多いと考えられる。可能なことがあれば役に立ちたいと考えます。

建設工事全般を考えて発注者、設計者(コンサル含む)、施工業者間に深い溝を感じる。そのために、工事実行中の無駄やトラブルの発生要因となっている。CVVが仲介役になれば良策と感じます。

公共事業計画に当たり、官側の説明が不十分なことが多くあり、住民よりとんでもない疑問点が生じたりした場合など、土木技術者のプロとして行政にタッチしてきたものとして、より効果的説得にOBが参画することはすばらしいと思う。

② 行政補完

公務員の人員削減の意識が高まる中で行政を補う観点から本企画は重要な課題である。

積極的に参加したいが、具体的にどの分野に貢献できるかについて、行政も含めた検討が必要と考える。

各府県土木事務所及び各市町村土木担当課の相談役

環境保全型社会形成を目指し、行政の公共事業の計画時から関与する。

今後、公共事業は地方自治体の発注が増加すると思われるので、工事の施工管理・品質管理の面がベテランの技術者の活躍の場があると考えられる。又設計時点での仮設計画等もベテランの力が必要とされるのではないか。

防災・治水・造成などの業務に対する机上論と実地論とのギャップ(行政やコンサル)。
このあたりの考え方に興味を感じる。

③ 情報

情報の交換

完全に土木技術者を離れてしまった者にとっては、今現在の土木業界がどのような状況つかめていない。ただ、定年後も定期的に国立図書館に行き、建設業新聞、土木雑誌を読んで、ある程度は把握しようとしている。
このような組織を作るのであれば、リタイアした後も情報が切れないように情報提供によって、土木技術者であるようにつなぎとめておく必要がある。

現在広まりつつある情報ネットワークを上手に活用しながら、土木に関わる情報の受信・発信を効率的に行い、日頃から防災の水準を模索すべきか

④ 住民・地域

住む地域、通勤上の道路において気になること、危険と思われること、常に「現役目」で観察しているのが現状です。地域の中での第一報告者(発見者)となるようにと心掛けている。

CVVを社会的に認められるように、また市民が利用しやすいように組織する必要がある。興味があるがまだ、現役と認識している

各地域、地区の特殊性を熟知した計画・設計などで、後で住民の満足を得られるような活動ができるようにもっていきたい。

行政サイドだけの考えや進め方ではなく、一般市民の考えを取り込んだ公共事業のあり方等について、参画あるいは協力できれば楽しいと思う。

市民運動が偏見を持つリーダーにミスリードされるケースが多く、このような組織(CVV)の必要性を以前から感じていた。

住民の安心や不満が行政に届くルートがあまりにも細い。逆に行政からの声も住民に届きにくい。その〇〇、住みにくい町になっている。町の施設やサービス面で改善する余地があり、コミュニティの一員として役割をにないたい。

将来、自分の経験が地元の発展に役立てるならば参加したい。

永年携わってきた知識、経験を生かす場があれば地域社会に貢献したい。

これからの公共事業は地元を含めた幅広い委員会のような組織で進める事業が多くなると思われ、それらへの参画。

まちづくりに関する相談事に協力して住民の方々のご心配が少なくなれば、町づくりが順調に進められる

⑤ 通訳・ご意見番・組織哲学

官公庁にいた身とはいえ、行政と住民の通訳出来るかな？

ご意見番などの具体的な事例に興味があります

「計画ご意見番」のような役割に興味がある。しかし、行政も市民もCVVの「いらぬオセッカイ」と思うでしょう。

- ・ご意見番的な役割が良いと思う。
- ・行政の視点と住民の視点の両方を持っているから。

公共事業の計画時点からの民意反映への関与は、理想的な形と考えられますが現時点においては限度があり、色々な面があるので「ご意見番」以降の活動に参加する方法がよいと思います。

個人技術者としての能力、権限は小さく、CVV設立の趣旨はわかるが、具体的活動分野はとなると行き止まる。土木学会が市民向けに発信される行事に声援を送る程度か。

NPO的な役割について関心がある

社会貢献活動を行うには、キーステーション的なものが必要であり、CVV構想がコアになることを期待している。

専門知識というよりも幅広い知見と哲学を生かすことが重要。